



からくり儀右衛門展

平成 25 年 11 月 30 日
～平成 26 年 1 月 16 日

前回の展示では、からくり儀右衛門こと田中久重のふるさと久留米に残る「ゆかりの地」をご案内しました。この天才技術者・発明家ともいわれる久重が創り出した作品は、数多くあります。今回は、からくり儀右衛門展に展示される作品のうちから、代表的なものをご紹介します。

からくりエンターテイメント

久重の創り出す「からくり人形」は、精巧・精緻だけでなく、観客の度肝をぬく仕掛けと繊細な表現を融合させたエンターテイメント性の高いものでした。また、べっ甲細工師の父の影響もあったのか、見た目も美しく飾られ芸術的な作品に仕上がっています。

弓曳き童子 (久留米市教育委員会所蔵)

からくり人形の最高傑作の一つといわれる。西洋から伝わった機械時計のゼンマイや歯車と糸からくりの技術を組み合わせたもの。ゼンマイをまくと自動的に童子が矢台から矢をとり、弓につがえて、数m離れた的に向けて次々に射る。今年、日本機械学会の機械遺産に認定された。

茶酌娘 (特定非営利活動法人久留米からくり振興会所蔵)

当時の先端技術であった、调速機構を応用したからくり人形。ゼンマイの力で客の方に茶碗を運び、茶碗をとりあげなくても客の前で自動的に停止する。久重のからくり興行でも特に人気を博したといわれる作品である。



◆弓曳き童子(上)と茶酌娘(下)

人々の生活を明るく便利に

京都・大坂に活動の舞台を移した久重は、様々な機械や器具の製造販売をはじめました。ここでは、携帯用のろうそく立て「懐中燭台」や、「無尽灯」「雲龍水」など、人々の生活を変える発明品を考案し、次々と世に送り出しました。

雲龍水 (久留米市教育委員会所蔵)

消火用のポンプで、高さ約 10mの高さまで放水できるという。ノズルの角度を変えることが可能で自在に放水できる。また、空気圧の調整に工夫があり、水勢は一定に保たれる。

無尽灯 (久留米市教育委員会所蔵)

空気圧を利用し、下部の燃料タンクから灯心に油を送り込むもので、燃料を継ぎ足す手間が省ける。大小7種類の製品を発売し、京都・大坂では行灯(あんどん)を駆逐してしまったという。



◆雲龍水(左)と無尽灯(右)

和時計の最高峰・万年時計

万年時計(万年自鳴鐘) (複元品/東芝科学館所蔵)

嘉永4年(1851)に完成させた和時計・からくり時計の最高傑作である。これは、時間の測定法が異なる和時計や洋時計のみならず、曜日、二十四節気、月の満ち欠けと旧暦の日付、十干十二支を示す六面の表示板がある。頂部には日本地図が描かれ、太陽と月の運行を示す天球儀となっている。これらが、台座に仕込まれた直径 12 cmほどの巨大なゼンマイ2組、計4個の動力で連動する。ゼンマイを一度巻けば、約1年間自動的に時を刻み続けるといわれる。国の重要文化財。



◆万年時計(複元)